

レニン・モレノ・ガルセス・エクアドル共和国大統領による日本国 訪問 共同声明（仮訳）

レニン・モレノ・ガルセス・エクアドル共和国大統領は、日本国政府の招待により、2018年9月3日から8日まで日本への公式訪問を行い、安倍晋三日本国内閣総理大臣と会談した。両首脳は、共通の関心のある分野につき、有意義な意見交換を行った。

I. 二国間関係

日・エクアドル外交関係樹立100周年

1 安倍総理は、2018年の両国の外交関係樹立100周年の機会におけるモレノ・ガルセス・エクアドル共和国大統領による訪日を歓迎した。両首脳は、本年1月のキト及び東京における開幕記念式典を含む、本年の成功裡に実施された記念事業に満足の意を表明した。両首脳は、本年8月13日の河野太郎外務大臣の初めてのエクアドル訪問を含む近年の両国それぞれの関係当局の要人の往来を歓迎した。モレノ・ガルセス大統領は、日本国の衆議院によるエクアドル・日本友好議員連盟の訪日招待に謝意を述べ、両首脳は、更に積極的な議員交流に対する期待を表明した。両首脳は、現在の協議メカニズムの強化及びハイレベルの交流促進により、次の100年に向けて、二国間関係を更に発展させる意図を再確認した。

経済関係

2 安倍総理は、モレノ・ガルセス大統領の政治・経済改革のための取組、特に外国直接投資を促進する取組に支持を表明した。両首脳は、両国の経済関係を更に強化する意図を表明し、日本国とエクアドル共和国との間の所得に対する租税に関する二重課税の除去並びに脱税及び租税回避の防止のための租税条約の実質合意を歓迎した。モレノ・ガルセス大統領は、ビジネス環境を改善するエクアドルの取組を説明し、日本との二国間投資協定の署名へのエクアドルの関心を改めて表明した。

3 両国間の特に農産品の経済交流を更に強化するために、両首脳は、日本の規格基準を満たしたエクアドルのカカオ豆の、日本の市場への参入を可能とするため、エクアドルの当局及びカカオ豆生産者を支援することを目的とした日本の農業分野の技術ミッションのエクアドルへの派遣を歓迎した。両首脳は、また、貿易及び外国投資に関する協力を強化することに努める。

また、両首脳は日本企業によるエクアドルへの輸出及び投資を促す、日本貿易保

険によるエクアドル向けの貿易保険の完全な再開を歓迎した。

4 両首脳は、地上デジタル放送分野及び情報通信技術分野における協力の着実な進展を歓迎した。両首脳は、この点に関し、日本国総務省とエクアドル共和国通信・情報社会省との間の地上デジタル放送分野及び情報通信技術分野における協力に関する協力覚書の署名を歓迎した。両首脳は、マンタとガラパゴス諸島とを結ぶ光海底ケーブルシステム等のあり得べき情報通信技術インフラ・プロジェクトにおける協力を含み、この分野における二国間協力が更に前進に対する期待を表明した。

経済及び社会開発協力

5 両首脳は、開放性、透明性、ライフ・サイクル・コストから見た経済性及び持続可能なファイナンスを含む国際スタンダードに則った形で地域の連結性を高める質の高いインフラの整備の重要性を再確認した。モレノ・ガルセス大統領は、この分野における日本との協力の増進に対するエクアドルの関心を表明した。

6 安倍総理及びモレノ・ガルセス大統領は、日本のエクアドルに対する20年ぶりの借款となる「電源構成転換促進支援計画」の実施のための7,000万ドルの額までの日本国のエクアドル共和国に対する借款の実現を歓迎した。両首脳は、同計画に係る交換公文への署名を歓迎した。両首脳は、また、エクアドルにおける再生可能エネルギーの利用及び電源構成の多様化を促進するチャチンビロにおける地熱発電計画の準備調査の進展を歓迎した。

7 両首脳は、両国の共通の課題である自然災害に対処するための取組の重要性を確認した。モレノ・ガルセス大統領は、この点に関し、防災分野における日本の協力を評価し、2016年4月のエクアドルでの地震の後の日本の人道支援及び「地震と津波に強い街作りプロジェクト」と名付けられた技術協力プロジェクトを強調するとともに、2016年9月及び2018年8月に交換公文で合意された「経済社会開発計画」に関する合計470万ドルの日本の無償資金協力について謝意を表明した。モレノ・ガルセス大統領は、さらに、エクアドルが地上デジタルテレビ放送の国内基準として採用した地デジ日本方式の特徴を有し、災害リスクを減少させる方法として効果的である、緊急警報放送システム（EWBS）の導入に関心を表明した。

8 モレノ・ガルセス大統領は、エクアドルの北部国境地帯における日本の人道支援及び治安改善のための協力に謝意を表明した。

その他の分野における協力

9 両首脳は、科学、技術及び学術の交流における協力を強化する意図を表明した。両首脳は、日本の文化交流使のエクアドル派遣及び日本の文化庁による文化遺産保存のための協力等の両国間の文化交流を歓迎した。

10 両首脳は、観光を通じたものを含む、特に青少年の人的交流を促進する意図を表明した。両首脳は、この点に関し、エクアドルにおける国際協力機構（JICA）ボランティアの活動、並びに日本政府奨学金制度等のプログラム及び小笠原諸島とガラパゴス諸島の青少年交流を含む市民社会による取組を通じた交流を歓迎した。両首脳は、外交旅券所持者に対する査証免除を相互に導入する意図を共有した。モレノ・ガルセス大統領は、エクアドル国民に対する査証発給要件の緩和に関する日本政府の決定に謝意を表明した。

11 両首脳は、2020年に東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることに鑑み、スポーツ分野における協力を推進する意図を共有した。モレノ・ガルセス大統領は、この点に関し、日本政府による「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムを通じた協力を高く評価し、両首脳は、両国の関係機関から示された関心に満足の意を表明した。

II. 国際場裡における協力

法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序

12 両首脳は、日本及びエクアドルが太平洋を挟んだ隣国であることを念頭に、海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）に反映されたものを含む普遍的に認められた国際法の諸原則に従った、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序が、国際社会の平和及び繁栄の礎であることを確認した。両首脳は、この点に関し、航行及び上空飛行の自由、阻害されない貿易、自制、非軍事化並びに法的及び外交的プロセスの完全な尊重を通じたものを含め、海洋に関する紛争の平和的解決の重要性を強調した。

民間航空

13 モレノ・ガルセス大統領は、国際民間航空機関（ICAO）の枠組みの中で、太平洋のFIR（飛行情報区）空白域に、国際航空の促進、地域間の航空連結性の促進、並びにマントータヒチ航空路の開設を通じた二つの地域間の観光、貿易及び投資の促進に貢献するFIRを、ガラパゴスFIRとして指定するというエクアドルからの提案の重要性を改めて表明した。

朝鮮半島情勢

14 両首脳は、関連する国連安保理決議に従い、北朝鮮による全ての大量破壊兵器及び全ての弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ不可逆的な廃棄の実現へのコミットメントを再確認した。両首脳は、米朝間の議論を歓迎するとともに、北朝鮮に対して、この目標に向かって具体的な措置を講じることを求めた。両首脳は、国連憲章の下での義務に沿って、関連する安保理決議を完全に履行するととのコミットメントを再確認した。両首脳は、拉致問題を即時に解決することの重要性を強調した。

国連における協力

15 安倍総理は、マリア・フェルナンダ・エスピノサ・エクアドル前外相が第73回国連総会議長に選出されたことに祝意を表明した。また、両首脳は、国連改革、核軍縮・不拡散を含む幅広い分野で国連において緊密に協力する意図を表明した。

核軍縮・不拡散

16 両首脳は、核兵器のない世界の実現に向けて意見交換するとともに、2020年の核兵器の不拡散に関する条約（NPT）運用検討会議の成功に向け、核軍縮、不拡散、原子力の平和的利用といった分野における協力を強化していく意図を表明した。両首脳は、NPT第6条を含むNPTの義務及び全ての締約国、特に核兵器国によってなされたコミットメントを想起し、その観点から、核兵器の全面廃絶に向けた様々な意見及びアプローチを尊重しながら、実践的な、かつ効果的な措置を更に講じることの重要性を強調した。

気候変動を含む地球規模課題

17 両首脳は、気候変動を含む地球規模の課題に取り組むことの必要性を再確認した。両首脳は、パリ協定の運用のため、パリ協定の実施指針に係る交渉を妥結させ、国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）において採択することに対する確固たるコミットメントを表明した。

移民に関するグローバル・コンパクト

18 両首脳は、安全で秩序ある正規移住のためのグローバル・コンパクトを採択するために2018年12月10日及び11日にマラケシュ（モロッコ）で開催される政府間会合に期待する。両首脳は移民が我々のグローバル化された世界の繁栄、革新及び持続的発展の源であり、移民の管理の改善によりこうした前向きな影響が最大限に活用されることを認識し、難民及び移民が普遍的人権及び基本的自由を享受し、それが常に尊重され、保護され、実現されなければならないこと、並びに移

民が歴史上常に人類の経験の一部であり続けてきたことについての共有された信念を改めて表明した。

モレノ・ガルセス大統領は、安倍総理及び日本国民から同大統領及びエクアドル側代表団に対する心温まる歓待に謝意を表明した。

2018年9月5日、東京にて